

みたび 三度『落第忍者乱太郎』の「聖地」尼崎をめぐる

—レポートする楽しみとは—

西田隆政

(甲南女子大学文学部)

はじめに

稿者は、2012年と2013年の夏に、それぞれ、『落第忍者乱太郎』の「聖地」尼崎の探訪を行った¹。数名の甲南女子大学の学生との探訪は、炎天下の厳しい条件にもかかわらず、非常に楽しく、かつ、有意義なものであった。

そこで、2014年の夏にも、参加したファンの学生からの要望もあり、三度目の、探訪を行うこととなった。今回のテーマは、命名の地名の地にある神社を訪ねることに設定した。当初、ファンを意識した神社は七松八幡神社だけであったが、最近では、その他の神社もファンの存在を意識して、対応を考えているようである。また、第2回にも探索した、公園等のQRコード記載の看板²も要探索であった³。

今回も募集をかけたところ、かなりの数の学生たちから参加の希望があった。なお、3度目の実施ということもあり、本稿は簡易版ということで、探訪地での状況説明を中心に稿を進めることにしたい⁴。

1 探訪の計画

当初の探訪の計画は以下のとおりである。

日時：2014年7月31日午前10時～16時

集合：阪急神戸線園田駅改札口

参加：教員1名＋甲南女子大学学生7～8名

目的：「忍たま」聖地の神社探訪

手段：園田駅でレンタサイクルの利用

天候：小雨決行（朝から雨の場合中止して順延）

予定コース

園田駅→食満→時友→富松（この近辺で昼食）→久々知→下坂部→潮江→尾浜→七松→尼崎市役所→善法寺→園田駅⁵

探訪予定神社等

上食満神社・中食満神社・下食満神社・時友神社・富松神社・富松城址・久々知神社・潮江神社・

¹ 第1回の探訪は西田（2013b）、第2回の探訪は西田（2014）を参照。

² 看板の様子については、西田（2014）掲載の写真を参照。

³ 西田（2014）を参照。この探訪では3カ所のQRコードを発見した。

⁴ 本稿では、西田（2013b・2014）のような現地での写真を掲載することはしない。すでに、「忍たま」の「聖地」探訪は、興味のある者は誰もが楽しめるものとなっており、他者の撮影した写真を見るよりも自分自身で現地を訪ねて楽しむ段階に来ていると考えるからである。

⁵ 尼崎市内の「忍たま」地名の関連地図は、尼崎観光ガイド編集委員会編の一連のものを参照。なお、西田（2013b）には尼崎市役所担当部局から許可を得た地図を引用掲載している。

今回は、前の2回とは異なり、10名近い参加者が予想されており、しかも、かなり長距離移動が予定されている。その点への注意が最大の課題であった。市北西部の時友・富松から南東部にあたる市役所を通って園田駅に戻るルートは20キロから30キロの移動距離となり、恒例の炎天下の探訪でもあり、参加者の健康への配慮は必要不可欠である。

しかし、「忍たま」ファンである参加者の意欲は高く、意気軒昂であり、この程度のこと、苦労とも思わない意気込みであった。主催する者としては、それを最大のアドバンテージとして計画を練ったのである。

2 探訪の開始から昼食まで

7月31日当日は、例によって快晴であった。午後からの気温の上昇も予想され、決して楽観できない状況である。しかし、参加者は、甲南女子大学日本語日本文化学科3年生3名、2年生3名、1年生2名、さらにメディア表現学科1年生1名と合計9名ともなった。全員、「忍たま」ファンであり、中には東京のイベント等に遠征する猛者、一眼レフカメラ持参の者もいて、非常に士気の高い一団である。

集合場所を塚口駅と間違えた学生もいて、出発は30分遅れの10時30分、園田駅で自転車をレンタルして出発した。最初の探訪と同様のルートで、6年生食満留三郎命名の地、食満を目指す。新幹線の高架橋には、例の「BL」(ブリッジランド=陸橋)の表示があり、全員喜んで撮影する⁶。これも、非公式の公式のようなものとなり、このあと、上・中・下の食満神社を目指した。

しかし、この三つの神社には、いずれも宮司の方が常駐されず、とくに、お守り等の販売もされていない。一行は、街中にある、ひっそりとした佇まいの神社を後にして、先を急ぐ。また、同地にある上食満公園には、QRコード付きの看板があるとの情報があった。しかし、今回参加者全員、公園内を隈なく探したのであるが、発見はかなわなかった。

そして、ここから今回の探訪で最大の難関となる、市北西部への移動である。比較的自転車での移動のたやすい、新幹線高架下の道路を利用する計画であるが、いかんせん、参加者10名の自転車では、1回の青信号で全員道路を渡りきれないことも多い。そうこうするうちに、3年生富松作兵衛命名の地、富松地区の手前で12時前となった。

ここで、計画の変更が不可避となった。出発時間が遅れていることもあり、2年生時友四郎兵衛命名の地、時友地区を回ると、以下の予定が消化できそうにない。そこで、時友神社⁷への探訪はあきらめて、富松で昼食をとり、探訪を続行することとなった。そして、富松城址を見学して、そこにあつたQRコードを撮影後、富松で昼食となると、当然富松食堂でとなる。

富松食堂は、富松町2丁目にある、大衆食堂である。多彩な惣菜や麺類やご飯類をカフェテリア形式で選んで会計をするお店である。すでに12時30分ともなり、全員空腹をかかえ、1300円近い会計になる者もいた。ちなみに、稿者は593円と一般にはこの程度で十分である。ここで、エネルギー補給のアイスクリームを全員分注文して、英気を養って、次の移動へとぞむ。

3 昼食後の南下から久々知神社まで

時間の遅れを取り戻すため、自転車での移動進行を急ぐ。まず、東へひたすら向かい、JR福知山線の踏切を通過する。このあたりは、とくに、探訪可能な場所もなく、移動に徹する時間である。午後の陽射しは厳しく、30度台半ばにもなりそうであるが、可能な限り日陰の部分を進むように工夫して移動した。

尼崎市の東部を南北に貫く県道41号線に行き当たり、それを南下して、5年生久々知兵助命名の地、久々知

⁶ 詳細は、西田(2013b)を参照。

⁷ 時友神社もお守りを頒布しているとのことである。

地区に向かう。近松公園の西側にある、久々知須佐男神社は、近年、「忍たま」探訪にも理解のある神社で、神殿の前には「忍たま」ポスターがある。宮司の方をブザーでお呼びすると来てくださるとのこと、早速、3名がお守りを購入する。

するとあろうことか、宮司の方が、参拝記念のご朱印を押してくださるということになった。3名とも大喜びで押していただく⁸。こういうことが、探訪での最大の喜びであろう。こちらの勝手な都合で探訪しているのであり、便宜を図っていただけるなどと、甘いことはもとより考えていない。しかし、そうであるからこそ、こういった配慮をいただくことが、喜びかつ探訪続行への大きな活力となるのである。

久々知からは、また、ひたすら移動が始まる。まずは、1年生下坂部平太命名の地、下坂部を通る。しかし、ここには、とくに神社もなく、探訪目的となるスポットはない。しかし、6年生潮江文次郎命名の地、潮江の工場群を抜けたところにある、久々知西町の公園には、QRコードの看板が設置されているという。その情報を頼りに、工場群の道を南下さらに西へ向かい、目的地の久々知南公園に到達した。確かに、久々知地区の中の最南部の先端に位置する公園である。

公園は、JR 福知山線と工場群に挟まれた、三角形の小さなものである。こういう一見何の変哲もなく、また、目立たぬところに、「忍たま」QRコードの看板は設置されている。意外と探すのは難しく、それがまた、探訪の一つの楽しみともなっている。こういうときこそ、グループ探訪の強みで、ここでは10人の力で、すぐに見つけることができた。まずは、上食満公園での雪辱を果たしたことになる。

ここから、さらに西に向かい、5年生尾浜勘右衛門命名の地、尾浜にある、尾浜八幡神社に到着した。尼崎市北部から6年生七松小平太命名の地、七松町の七松神社や尼崎市役所へ向かう、丁度通り道にあり、比較的探訪しやすい神社である。ここでは、とくに、「忍たま」関係の掲示物はないものの、お守りの販売があり、1名の学生が「かんちゃん〜」と喜んで購入した。そして、ここまで来ると、探訪のメインである七松の地へも、もう一息である。

4 七松神社と尼崎市役所と「艦これ」

尾浜八幡神社からは、3年生三反田数馬の命名の地、三反田を通り、七松地区に向かう。この三反田には、とくに、神社などの、ランドマークとなるような場所がない。公園らしい公園もない。地名表示の撮影に苦勞する代表的な命名の地である。今回は、JR 東海道線の三反田踏切の標識を撮影した。これは、比較的わかりやすい地名表示である。

踏切を南にわたり、そこから線路沿いを東へ、さらに南へ向い、七松八幡神社に到着した。すでに、何回も探訪した者も多いが、初めての者もいる。いずれにしても、ファンの奉納した絵馬も目にするのできる、もっともテンションのあがる場所である。

今回は、宮司の方ではなく、若い男性の方が出てこられた、しかし、ファンとの対応も手慣れたもので、学生たちは、お守りや絵馬などを購入し、かつ、神社の木陰で、炎天下の移動の疲れを癒す時間となる。しかし、稿者は、ここで休憩を取れない。それには理由があった。この神社から南方1キロあまりの地に、今回の探訪目的地の一つ、難波八幡神社があるからである。

ちなみに、この神社は「忍たま」の「聖地」とは、まったく無関係である。2013年5月にサービス開始以来、ファンから多大な支持を集めている、「艦隊これくしょん」(以下、略称「艦これ」とする)に関わる「聖地」なのである。「艦これ」はDMMよりサービスの提供されている、PCのブラウザを使用して専用サーバーにアクセスして参加するゲームである⁹。稿者は「艦これ」の「提督」¹⁰でもあり、今回の探訪では、この神社に

⁸ ご朱印があるだけでなく、宮司の墨痕淋漓とした書跡でもある。興味を持った方はぜひとも参拝されたい。

⁹ 「艦これ」の詳細については、DMM.comの「艦これ」サイトを参照。

<http://www.dmm.com/netgame/feature/kancolle.html>

¹⁰ 「艦これ」のゲーム参加者は、一般に、艦隊指揮官の称号である「提督」と称されている。

ある、現存する第2次大戦の遺跡ともいえる、戦艦榛名の国旗掲揚マストをかならず見てこようと決意していた¹¹。

ただし、スケジュールが遅れており、15分程度しか時間は取れない。学生たちには、しばらく待つようお願いして（指示ではなく）、自転車にて単独急行した。もちろん、今回の探訪には女子「提督」¹²は不参加であり、参加者たちの興味の引くようなものではない。難波八幡神社到着し、マストの写真撮影後、即座に、七松八幡神社へと戻った。

学生たちの前には、息を切らして現れる。しかし、ここで休む時間はない。すでに、3時をすぎている。すぐに、東へと向かい、市役所に到着した。

尼崎市役所の都市魅力創造発信課は、すでに「忍たま」の「聖地」といってよいであろう¹³。ファン垂涎の「忍たま」グッズを展示するだけでなく、交流の掲示板もあり、まさに「忍たま」ファンの居場所といえる。そして、そこでは、ファンの名簿を作って、リピーターには、グッズや新しい資料等の配布も行っている。

稿者も含めて、半数近い参加者は、名簿に登録を終わっており、さらに、未登録の学生たちも名簿に登録して、晴れて全員、尼崎市公認の「忍たま」ファンとなった。夏休み中でもあり、我々一行以外のファンの方々も多数市役所を訪れ、市役所のカウンターは大盛況となっていた。

参加者は、冷房の効いた市役所内で英気を取り戻すとともに、いよいよ、阪急園田駅への帰途に就くこととなった。なお、この稿の方針上、今回は、個々の参加者たちの表情や様子を描写することは控えているが、全員、満足しての旅程となっていることは、付記しておきたい。

5 帰路

すでに4時を過ぎて、陽射しも、心なしか、弱くなったように感じる。しかし、「聖地」の探訪は、帰宅するまでが探訪であり、ここで気を抜くことはできない。第1回の探訪でも利用した、JR東海道線北側添いの道路を使用して、ひたすら東にすすむ。まずは、潮江にあるJR尼崎駅を目指す。この駅内にある案内板には、「忍たま」由緒の地名が多数記載されており、ファンには、人気のスポットである。元気のある数名が、階上駅の階段を上って撮影に向かった。

そして、3年生の2名が時間の都合で、先に帰宅の途に就いた。これも時間超過故、やむなしであった。残った8名は、いよいよ、駅の東側にある県道41号線を北上して、6年生善法寺伊作命名の地、善法寺地区へと向かう。ここには、善法寺神社、善法寺公園、善法寺橋と、3カ所の探訪スポットが揃い、人気の探訪地でもある。とくに、善法寺公園には、QRコードの看板があるとのことで、これを発見するのも、大きな目的である。

第1回では、道に迷った善法寺地区も、3回目の今回は、順調に目的の地に到着する。神社探訪の後、公園に向かう。公園では、QRコードも無事発見して、今回の目的は、ほぼ達成することができた¹⁴。

恒例の善法寺橋を渡って、園田駅に向かう。4時30分を過ぎて、ゆったりとした気分で、駅に到着した。出発予定が遅れて、時友神社への探訪はできなかったものの、その他は、ほぼ順調にスケジュールを消化できた。久々知須佐男神社、尾浜八幡神社、七松八幡神社では、お守りを購入することができた。また、富松城址、久々知西公園、善法寺公園の3カ所でQRコードを発見することもできた。参加者全員、疲労ありつつも満足して、家路に就くことができたのである。

¹¹ 「艦これ」では、第2次世界大戦時に日本海軍の連合艦隊に所属する艦船を登場キャラクターのモデルとして使用しており、その艦船や日本海軍に関する遺跡を探訪することも、「艦これ」ファンの間では人気となっている。

¹² 「艦これ」には「女子」提督が多数参加していることが知られている。詳細は『コンプティーク』2014年10月号の記事「女性提督たちの艦これ」を参照。

¹³ 本課の職務内容については、2014年8月6日『朝日新聞』夕刊記事「忍たまファン行ったらう 尼崎市役所」を参照。

¹⁴ なお、これ以降に公園等を探訪した学生の報告によると、QRコード記載の看板は撤去されているとのことである。今回は、非常によいタイミングでの探訪ができたことになる。

6 リピートする楽しみ

尼崎の「忍たま」の「聖地」探訪の楽しみについては、西田（2013b）において、5点指摘しておいた。

- 1 トラブルこそ楽しい
- 2 予想外の発見が楽しい
- 3 参加者の人柄が見えてくるのが楽しい
- 4 女子旅が楽しい
- 5 ドキュメンタリーを自分がやっていることが楽しい

今までの3回の探訪を通して、これらの点を、とくに大きく修正する必要はないものとする。今回の探訪でも、トラブルあり、予想外の出来事あり、参加者相互の交流も進み、体験する楽しみを実感し、各人充実した探訪になったと確信する。

本稿で、さらに付け加えることがあるとすると、それは、リピートする楽しみということになるだろうか。西田（2014b）でも述べたように、「忍たま」の「聖地」探訪は、一般的なアニメ・マンガの「聖地」探訪とは異なり、単に作品に登場した場面をなぞっていくのではなく、自分自身で興味の対象となるものを見つけていくところにその特色がある。

とすると、リピートして、ファンが尼崎の地を何度も訪れるのは、常に新たな発見があり、そのことによって、より一層「忍たま」ファンとしての意識が高まるからではなかろうか。そして、その過程で、おのずと尼崎市のファンにもなっていく者も出てくるということになる¹⁵。

先にも触れた、現在の尼崎市の取り組みは、これをバックアップするものとなっている。そして、この動きは着実に広がりつつあると考えられる。今後の「忍たま」の「聖地」探訪の動向については、さらに、注視していく予定である。

おわりに

今回、第3回の探訪は、地名だけでなく、その中のランドマークでもある、神社にしぼっての探訪であった。また、隠れたファンへのメッセージであるQRコード付きの看板を探すことも行った。ともに、ファンが自由に地名を探して探訪するというよりも、周囲のサポートを受けての探訪ということになる。当初は、ファンの自発的行為として始まった、尼崎の「忍たま」の「聖地」探訪も、周りの理解も深まり、その支えを得るようなものとなったのか、というのが、正直な感想である。

とくに、2013年度以来、尼崎役所が積極的に支援してくれるようになったのが、最も大きな力となっているだろう¹⁶。このあたりから、さらに周囲の理解が深まり、探訪される神社の側からも、手を差し伸べてくれるようになりつつあるのではないかと、思われる。

尼崎市での「忍たま」の「聖地」探訪は、この3回にわたる探訪の範囲では、主要な場所は、ほぼ回り終えたところである。しかし、さらに若い「忍たま」ファンが存在し、彼女たちも、ぜひとも探訪したいと考えている。その点も踏まえて、来年度、第4回の探訪を実施するならば、どのようにするのがよいのか、現在思案している次第である。

【参考文献】

朝日新聞社、2014、「忍たまファン行ったらう 尼崎市役所」、『朝日新聞』2014年8月6日夕刊大阪本社3版

¹⁵ 「聖地」をリピートするファンの存在とその意義については、岡本（2013）を参照。

¹⁶ 注13の『朝日新聞』の記事参照。さらには、尼崎市観光ガイド編集委員会（2014）は、前の年度発行のものよりも、尼子惣兵衛先生のインタビューを掲載する等、はるかに「忍たま」押しの姿勢を前面に出しているのが見て取れる。

2面掲載、担当記者中塚久美子、写真撮影伊藤菜々子

尼崎で観光（あまかん）編、2012、『尼崎観光ガイド 2012』あまがさき・街のみどころご案内委員会

尼崎観光ガイド編集委員会編、3013、『あまらぶ尼崎観光交流ガイド 2012-2013』あまがさき・観光振興推進事業「あまかん」

尼崎観光ガイド編集委員会編、2014、『あまらぶ尼崎観光交流ガイド 2014-2015』あまがさき・観光振興推進事業「あまかん」

尼子惣兵衛、2011、『落第忍者乱太郎公式キャラクターブック 忍たまの友 天の巻』朝日新聞出版社

岡本健、2013、『n次創作観光アニメ聖地巡礼／コンテンツツーリズム／観光社会学の可能性』NPO法人北海道冒険芸術出版

艦これ課報部編、2014、『アプリ完全攻略ガイド vol.2 総力特集艦これ』株式会社インターナショナルラグジュアリーメディア

コンプティーク編、2013、『艦これ 提督が鎮守府に着任しました』、『コンプティーク 31-10』2013年10月号別冊付録

コンプティーク編、2014、「女性提督たちの「艦これ」」、『コンプティーク 32-4』角川書店

西田隆政、2013a、『落第忍者乱太郎』における尼崎地名による命名—尼崎の「聖地」化の要因について—、『甲南女子大学研究紀要 49（文学・文化編）』甲南女子大学

西田隆政、2013b、『落第忍者乱太郎』の「聖地」尼崎をめぐる—、『女子学研究 3』女子学研究会

西田隆政、2014、「再び『落第忍者乱太郎』の「聖地」尼崎をめぐる—尼崎市とファンの関係性とは—」、『女子学研究 4』女子学研究会

【参考サイト】

DMM.com 「艦これ」サイト（2014年1月7日最終確認）

<http://www.dmm.com/netgame/feature/kancolle.html>

付記：本稿は、2014年10月25日土曜日13時（於832教室）に、甲南女子大学の学園祭の行事の一つとして実施した講演、「日本語日本文化学科公開講演会 漫画アニメの舞台探訪—『忍たま乱太郎』の「聖地」尼崎を中心に—」をもとにして、加筆・修正して成稿したものである。貴重な機会をくださった、甲南女子大学、日本語日本文化学科には、あつく、御礼申し上げます。